

平成16年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号)	<b>提案機関名</b>	湘南家畜保健衛生所	
93			
※記入不要			
<b>要望問題</b> 高い受胎率が期待できる牛受精卵の凍結方法の研究			
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】			
<p>本県の受精卵採取の普及において、受胎率を高め、取り扱いが簡便な方法を開発することが一番重要な事項であることから、次の事項の研究を進める。</p> <p>①ダイレクト法の改良 ②ガラス化法の確立</p>			
<b>解決希望年限</b>	①1年以内	②2～3年以内	③4～5年以内 ④5～10年以内
<b>研究対応区分</b>	①研究所対応	②委託研究	③共同研究 ④その他
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業総合研究所（②根府川試験場 ③三浦試験場 ④津久井試験場） ⑤畜産研究所 ⑥水産総合研究所（⑦内水面試験場 ⑧相模湾試験場） ⑨自然環境保全センター		

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	畜産研究所		
部 署	畜産工学部		
<b>対応区分</b>	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合) H14年度 受胎率向上のための受精卵の凍結・融解方法の比較検討 ガラス化溶液組成の比較 ガラス化法と急速ガラス化法の比較 H15年度 バイオプシーしたウシ胚における超急速ガラス化保存法の検討 ガラス化保存されたウシバイオプシー胚の簡易融解手法に関する検討 ガラス化保存（VSED法）前・保存後の性判別の検討		
<b>対応の内容等</b>	ダイレクトトランスファー法、ガラス化保存法等の受精卵の超低温保存技術については、現在共同研究が全国各地で行われており、母集団も多く、様々な方法が検討されているため、その結果をふまえて、本県でも実証試験を行う予定です。 ダイレクトトランスファー法については、今年度は、1.8M エチレングリコール+0.1M シュークロースの凍結保護物質を使用して行う予定で、ガラス化保存法については、取り扱いが簡便な方法である神奈川方式を、共同試験において他県と共に検討します。そのほか、超急速ガラス化保存法についても、共同試験の情報を提供します。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内	②2～3年以内	③4～5年以内 ④5～10年以内
<b>備考</b>			